

技術・家庭（家庭分野）科

1 技術・家庭（家庭分野）科の研究主題

「自立した生活者の育成」～消費者教育に視点を当てた授業を中心に～

- (1) 自分なりの考えをもち、合理的、論理的な思考ができる。
- (2) さまざまな情報の内容を読解し処理する。これらをもとに判断、決定し、主体的に行動できる実践力を育てる。

2 研究の概要

(1) 主題設定のねらい

豊かで物資があふれ、物を大切にするというよりは、消費型の生活をしている生徒が多くいる。さらに、携帯電話やインターネットなどの普及の進展により、様々な情報が氾濫し、その中で生活し、その情報に左右され、自分で判断・決定できない生徒も増えている。また実体験不足の生徒も多くいる。このような中で目的実現に向けて、様々な情報を読み取り処理し、これらを自分なりの価値観をもち、主体的に判断決定できる生徒を育てることが大変重要だと考える。以上のことから本研究主題を設定した。

(2) 概要

各学年各領域で「消費者教育」として指導できる内容があるが、生活の自立と衣食住の中の「食品の表示」と家族と家庭生活の「商品の選択」「消費者の自覚」に内容を絞って次の点について研究を進めた。

- ・指導法の工夫（企業の立場になって考えたオリジナルお菓子のパッケージの製作、K J 法的学习）
- ・授業形態の工夫

3 19、20年度取り組みからの考察、課題

指導内容や学年の特徴を考慮し、授業形態と指導法に関して、工夫し検討した。

(1) 授業形態について

学年による学習内容の違いから、①一斉授業中心②一斉授業から個別探求へ③一斉授業からグループ学習へと進む、3つの授業形態を取り入れた。特にグループ学習では構成人数を通常の生活班6名から4名とした。少人数にすることで、話し合い活動では各自の役割が明確となり積極的に授業に参加すると思った。

(2) 指導法の工夫について

- ・グループの構成やK J 法的学习の方法を、生徒の実態に合わせより効果的な方法を工夫した。
- ・実物見本を提示し、表示の内容を分析し（読解力と思考力）、その必要性和意味を理解する。さらに企業の立場に立って、消費者の気持ちをつかんだ商品パッケージの製作に取り組ませた。

4 21年度の取り組み

- (1) 1年商品の表示の学習で実物のパッケージの表示内容を分析し、実際に企業側（製造者）の立場になって「お菓子のパッケージ」を製作した。企業側の考えや気持ちを理解し、また消費者の気持ちをつかむ商品パッケージの製作を通し、消費者の一人としてどの点を注

意したらよいかなどを考えさせた。これらの学習を通して表示の内容や意味を、消費者としての適切な態度などを身近にとらえ、学習を深めることができた。

- (2) 20年度に実施した学習形態の工夫とKJ法的学习を取り入れた指導の2年目としてより効果的な方法を検討し実施する。

5 具体的な実践例

実践例1

- (1) 題材 「食品の表示」

- (2) 実施学年 第1学年

- (3) 指導計画 3 / 5 (第4スパン)

- (4) 学習の流れと指導のポイント (実物見本の分析と企業側の立場の理解)

お菓子のパッケージから表示の内容を分析し、その意味を考え、実際に自分が企業側(製造者)側の気持ちになってお菓子のパッケージを製作する。

- (5) 本時の目標

- ・実物見本を分析できる。(読解力、思考力)
- ・商品についている表示の内容と意味を理解する。(思考力)

- (6) 展開

	指導内容	研究主題に関わる指導上の留意点
導入	お菓子を選ぶポイントを考え、発表させる できるだけ多くの意見を発表させる	様々な意見を聞き自分の考えを深める (読解力)
展開	・お菓子の実物パッケージを見てどのような表示があるか調べる ①表の表示内容は何か ②裏面の表示内容は何か ・表に記載されている内容と裏の表示内容の違いに気付かせる ・どの商品も同じ内容ではなく、対象者を意識した表示になっていることに気付かせる。 *表：対象者を意識した内容になっている ネーミング、字体文字の大きさ、色遣い、アピールすることなど 裏：品質表示、製造者の情報など 必ず表示しなければならない表示と表示した方が良いものがあることに気付かせる。	・実物見本からどのような表示が必要なのか読みとる。 (思考力、読解力) ・商品によってパッケージのデザインや表示の内容が違う理由を考えさせる。 (思考力)
まとめ	商品についている表示の意味を考えさせる。 ・表示は商品の情報であり、その内容は消費者にとっても生産者にとっても必要な内容であることに気付かせる。 次回から自分でオリジナルのパッケージを作ることを意識させ、身の回りのパッケージを調べさせる。	気付いたことを自分の言葉で発表させる。(表現力)

- (7) 評価

- ・実物見本を調べ表示の内容を分析することができたか。
- ・商品についている表示の内容と意味を理解することができたか。

実践例 2

(1) 題 材 「わたしたちの消費生活」

(2) 実施学年 第 1 学年

(3) 指導計画 4 / 5 (第 6 スパン)

(4) 学習の流れと指導のポイント (少人数グループと K J 法的学习)

買い物の失敗経験やアンケート結果から、失敗の原因と正しい対処の方法を考える。

- ・ アンケートの結果を整理する。(読解力・思考力)
- ・ アンケートの結果からその特徴を考える (読解力・思考力)
- ・ アンケート結果から解決策を考える (思考力・判断力)

(5) 本時の目標

- ・ アンケートの結果を整理できる。(読解力・思考力)
- ・ アンケートの結果からその特徴を考えることができる。(読解力・思考力)
- ・ アンケート結果から解決策を考えることができる。(思考力・判断力)

(6) 展開

導 入	買い物の失敗経験を思い出し発表する。 事前アンケートを見せ、色々な失敗があることを知る。	様々な意見を聞き自分の考えを深める (読解力)
展 開	アンケート結果を読み、班ごとに話し合い、 気付いたことをまとめる。 ・ 気付いたことを発表させる。 ・ 分類から失敗の原因を整理する。 ◎商品に問題がある場合 ◎消費者に問題がある場合 ◎販売店や製造者に問題がある場合 ・ 班ごとに話し合い、失敗した時にどうしたらよいかを考える。	・ 実物見本からどのような表示が必要なのか読みとる。 (思考力、読解力) ・ 商品によってパッケージのデザインや表示の内容が違う理由を考えさせる。 (思考力)
ま と め	失敗の原因に応じて対処の方法が違うことに気付かせる。	気付いたことを自分の言葉で発表させる。 (表現力)

(7) 評価

- ・ アンケートの結果を整理できたか。(知識・理解、読解力・思考力)
- ・ アンケートの結果からその特徴を考えることができたか。
(知識・理解、読解力・思考力)
- ・ アンケート結果から解決策を考えることができたか。
(知識・理解、表現の工夫、読解力・判断力)

6 研究の考察・まとめと来年度への課題

(1) 考察・まとめ

① 実物見本を提示し、表示を読み取る学習

100%の生徒が自分が食べるお菓子くらいは自分でお金を出して購入した経験をもっ

ている。アンケート調査によると、商品（お菓子）を選択する基準の1位は「味」「価格」でありほぼ100%であった。次いでパッケージのインパクトで決定する、おまけに惹かれるがそれぞれ20%であった。表示をきちんと確認する生徒は38%、ほとんど確認しない生徒は50%、であったが、その両者とも賞味期限を確認する程度であった。ましてや「食物＝命とつながっている」などと考える生徒はほとんどいなかった。

この授業では、まず普段見慣れているお菓子の実物見本を多数提示し自由に手にとって確認させた。普段見慣れているものであると同時に、お菓子のパッケージであるためどの生徒も大変意欲的に授業に参加し、活発に意見を発表することができた。表に記載されている表示と裏に記載されている表示の違いや、表の表示は消費者に購入させるための工夫がなされていること、裏の表示はその商品の情報が記載されていることなどを読み取り、その必要性や意味を考えることができた。

次時より実施したパッケージの製作では、企業側の立場に立って商品をいかに消費者に購入してもらうかを考えることから始めた。生徒にとっては、普段は消費者として商品を選ぶ立場であるが、そのときの選択する条件（決め手）を冷静に考えさせ、企業側としてその気持ちを組み込んだ、そして対象者（ターゲット）を意識したパッケージを作ることができた。

完成作品

【生徒のアイデアと予想される効果】

- 「ベジタリマン」 3～8歳対象
カルシウム・野菜入り。明るい色を使った。
シール付き。覚えやすい名前にした。
*子どもがキャラクターを好きになる。親が選んでくれる。口コミで広がりやすい。
- 「ベリー&チョコ」 10～20代対象
カロリーを50%オフにした。
キャラクターを描いた。
裏には「おいしさの秘密」を書いた。
イチゴチョコにイチゴの粒を入れる。
*ダイエット効果があるため若い世代に受け入れられる。キャラクターが親しまれる。
- 「おからクッキー」 40～50代
大豆イソフラボンや豆乳を入れた。色遣いを柔らかくした。字を大きめにした
*40～50代は女性ホルモンが減るので、女性ホルモンと同じような効果があるイソフラボンと豆乳を入れて、女性に受けるようにした。



表のパッケージ



この学習を通して、表示の内容や意味についてよく考え、確実に理解することがき

た。そこから、それが実際の自分の生活に密着していることに気付くことができた生徒が多くいた。また企業に乘せられて商品を選択するのではなく、表示を自分の目で確かめ（読解力）、品質の良いものを選ぶという行動（思考力・判断力）や自分の生活に生かしていこうという意欲につながってきた。

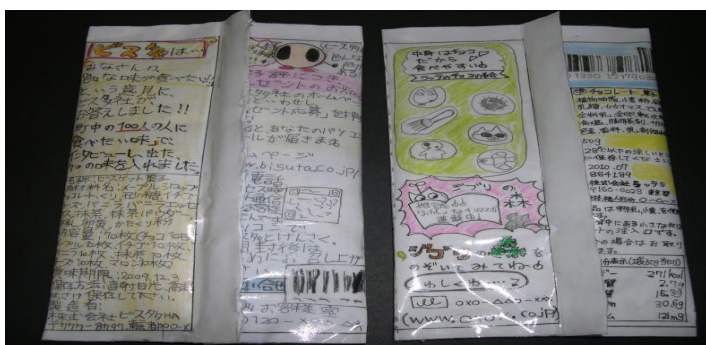


裏の表示は実物見本を参考にして考えた。よりリアルに！

授業後の感想より

- ・普通にお菓子を買って食べていたけれど、パッケージにもいろいろな意味や工夫があるのだと知っておもしろいと思いました。
- ・今まで裏の表示を見たことがあまりなかったのだけれど裏にはすごく大切なことがのっていたんだと思いました。
- ・アレルギー表示は消費者にとっても企業にとっても大切だということがわかりました。また、表示には私たちが初めて知ったこともあるので、今度は買う前に表示をきちんと見ようと思う。
- ・1つ1つの表示に意味があることを、今回のパッケージ作りでわかった。
- ・お菓子のパッケージを改めて細かいところから見直せた。新発見があった。
- ・表品についている表示は商品の情報になっていると思った。消費者にとっても製造者にとっても大切な情報だと思った。
- ・自分で意識して表示を見て買い物をしようと思いました。また、自分で判断できる目をもつことが大切だと思った。

生徒の力作 とてもリアル！！（思考力・表現力）



② K J 法的学习と学習形態の工夫（実践例2）

生徒からとった「商品購入の失敗経験」についてのアンケートをもとに、その内容を①消費者に問題がある②商品に問題がある③販売店や製造者に問題がある、の3つに分類させた。その際付箋を使ってK J 法的学习を試みた。初めに全体で意見を出し合い、それを

グループごとに話し合って分類し、全体に発表する。という流れで実施した。22～23の意見を分類したが、生徒が迷うものもあり、時間がかかった。分類したものに見出しを付けるところまでグループで行い、その後ワークシートによる振り返り学習を行った。今回は生活班の6人班で実施したが人数が多すぎて積極的に参加できない生徒もいた。そこでグループの人数を4人とし、司会、記録、その他という役割を決めて活動が活発でスムーズに進行できるようにした。またグループで相談する用紙も生徒が分類しやすいように改良した。

今回の授業では、生徒がアンケートを見て気付いたことを発表させたが、様々な意見が多く、上の3つに分類できないような意見もあり、迷う場面（思考する場面）が多くあった。特に「食べ物を買ったら賞味期限切れだった」という意見には、「賞味期限を見ないで買った消費者が悪い」という意見と「賞味期限切れの商品を販売している店が悪い」という対立した2つの意見が出た。それについて次々に意見が出され、予想以上に議論が活発化し、深まった。これは初めに自由に考え、様々な意見が出された結果、スムーズに分類できなかったために、返って生徒の思考が深まったと考えられる。

③ 今後の課題

本研究を通し授業を組み立てる中で、生徒が思考する場面はたくさんあるということを改めて実感した。今回は消費者教育を中心に読み取る場面、思考する場面、判断する場面、表現する場面を設定した。本来、実技を伴う教科であるため、様々な作品作り・実習でも意図的にそれぞれの場面を設定することが大切である。今までは、作品を完成させることに終始してしまいがちであった。もちろんこれは大切なことではあるが、作業や実習を通して、思考力・判断力の育成を図る授業を工夫する必要があると感じた。

(授業後の生徒のワークシート)

商品の表示まとめ（1年家庭科）

1年 組（ ）

1. お菓子のパッケージ

①あなたの考えたお菓子の名前は？

チョコ・ビスケット

②どの年齢を対象（ターゲット）にしましたか？

6才～10 才 代

③どのような点を工夫しましたか？（ターゲットを意識した内容は）

表面に3倍の甘い絵もかいたこと
お菓子のイラストも書いて、カルシウムをたっぷり入れた。

④予想される効果は？（工夫したことから考えられる効果）

カルシウムは小さな子供にとって大切なので主に小さな子供がよく買うと思う。

2. 商品の表示のまとめ

①必ず表示しなければならない表示は？

(ア) 表の表示

商品名、味、キャッチコピー（ア・メリ、内容量（増量）会社名

(イ) 裏の表示（品質表示）

原材料、賞味期限、製造者の名前、住所、内容量、保存方法

(ウ) 表示した方がよいものは？

栄養成分、マーク・バコード、産地

3. 表示の学習を通して分かったことや気づいたことを記入してみよう

商品の情報は消費者にとってとても重要でなくてはならないものだとよく分かった。製造者にもとても大事なところだと思ふ。商品の値段もあるから、安心に物を買えるのだと思ふ。

4. これからの生活で生かしてみようと思ったことを記入しよう

なにを買うときに表示を見て、どちらが得かとか、栄養成分で考えたりして物を買うようにしていこうと思ふ。

5. 自己評価

① 表示の意味が分かったか

よく分かった ままあ分かった もう少し

② 表示の内容が理解できたか

よく分かった ままあ分かった もう少し

商品の表示まとめ（1年家庭科）

1年 組（ ）

1. お菓子のパッケージ

①あなたの考えたお菓子の名前は？

チョコ・ビスケット

②どの年齢を対象（ターゲット）にしましたか？

10～20 才 代

③どのような点を工夫しましたか？（ターゲットを意識した内容は）

10才～20代、特に10代の中学生は友達と遊ぶところが多いので、友達と遊ぶところでも目につくように思いました。それに全体的に7割をチョコレートで包んで、お菓子の味をたくさんかき混ぜました。10代の子供たちには、お菓子の味をたくさんかき混ぜました。10代の子供たちには、お菓子の味をたくさんかき混ぜました。

④予想される効果は？（工夫したことから考えられる効果）

10～20代、特に10代の中学生は友達と遊ぶところが多いので、友達と遊ぶところでも目につくように思いました。それに全体的に7割をチョコレートで包んで、お菓子の味をたくさんかき混ぜました。10代の子供たちには、お菓子の味をたくさんかき混ぜました。

2. 商品の表示のまとめ

①必ず表示しなければならない表示は？

(ア) 表の表示

商品名、味、キャッチコピー（ア・メリ、内容量（増量）会社名

(イ) 裏の表示（品質表示）

原材料、賞味期限、製造者の名前、住所、内容量、保存方法

(ウ) 表示した方がよいものは？

栄養成分、マーク・バコード、産地

3. 表示の学習を通して分かったことや気づいたことを記入してみよう

商品の情報は消費者にとってとても重要でなくてはならないものだとよく分かった。製造者にもとても大事なところだと思ふ。商品の値段もあるから、安心に物を買えるのだと思ふ。

4. これからの生活で生かしてみようと思ったことを記入しよう

なにを買うときに表示を見て、どちらが得かとか、栄養成分で考えたりして物を買うようにしていこうと思ふ。

5. 自己評価

① 表示の意味が分かったか

よく分かった ままあ分かった もう少し

② 表示の内容が理解できたか

よく分かった ままあ分かった もう少し